

一般質問



武 辺
議 員

○ともだビジョンくウッドスタートの導入とおもちゃ美術館の建設の意義と必要性について

質 林業、木工で生計を立てている経営体の数はいくつですか。

農林課長 市内に3事業者あります。

質 県内他自治体と比較して本市における戦後植林された本格的な利用期を迎えている人工林等の面積、蓄材量、森林率、杉、檜の割合はどうですか。

農林課長 人工林のほとんどが杉と檜で、本市の人工林面積は約3000ha、蓄材量は約100万m³、森林に占める割合は52%です。本市の人工林面積は県内で10番目です。

質 市内林業林材産業の課題としてどんなことが挙げられますか。

農林課長 個人所有林が小面積であること、土地の境界が確定しておらず、間伐等に苦労すること、後継者不足が深刻であることです。

質 NPO法人芸術と遊び創造協会におけるウッドスタート事業部の事業内容とウッドスタート宣言必須条件は何ですか。

子育て・子ども課長 事業内容は、誕生祝い品制度の導入を軸として、ウッドスタートネットワークを普及

させていくものです。必須条件は、誕生祝い品事業とその他6事業のうち1事業以上をあわせて実施することです。

質 ウッドスタート事業を展開するための初年度、次年度以降の予算額は幾らですか。

子育て・子ども課長 今のところ初年度で400万円と試算しています。

質 木育の必要性に対する市民の理解を得てからウッドスタート事業の説明議論が始まるものと思っていました。木育キャラバンは本市にとって喫緊の課題でしょうか。

市長 本市はCO₂の排出量が多いと言われている石炭火力発電所をまぢづくりの柱に置いており、森林は守らなければならないと思つています。そうしなければ、山は荒れ、災害の可能性もあり、農業、水産業にも影響します。次世代にしっかりと伝えてもらうために、ここで木育だろ

うという思いに至りました。

質 ウッドスタート事業に関しては、順番が違うのではないですか。まずは、木育推進計画策定、官民協議会

議開催、そして推進の中核となる団体、個人の確保、育成が必要だと考えますがいかがですか。

市長 まずは、木のおもちゃに触れていただいて、ウッドスタート事業の取り組みを市民の皆さんと一緒に適切に判断したいと考えています。

一般質問



和 田
議 員

○松浦市総合計画（2016）の基本計画の検証

質 第1次松浦市総合計画の基本計画全体を検証してはいかがでしょう。また、第2次総合計画について、どのようなものを作りたいと考えておられますか。

市長 第1次総合計画の策定時は、地方自治法において総合計画の策定が義務化されており、この総合計画に盛り込まれることで国の補助や交付金の対象となることから、総花的に事業を網羅する形で掲載せざるを得なかったということです。現在は義務化でなく、個別計画を掲載する必要も薄くなっていると捉えております。第2次総合計画は、真に市民が松浦市の将来に求めているあるべき姿をうたい、市民の皆さまに手に取っていただき、読んでいただきやすい総合計画としたいと考えております。一方、第1次総合計画の検証も重要と考えております。個別事業の検証では、拡大、継続、縮減、見直し、廃止等の評価を行っており、今後の行政運営へ反映できるよう、しっかりと検証を進めてまいります。

○行政サービスと松浦市定員適正化計画について

質 平成18年度以降、国や県からの権限委譲で、どの程度事務量が増加していると思われますか。

総務課長 平成30年4月1日現在で、国から23項目、189件、県から15項目、108件で、合計しますと、38項目、297件の事務について委譲を受けており、事務量の変化については相応の負担が生じているものと考えております。

質 松浦市定員適正化計画においては、「社会経済情勢の変化、財政状況及び地方分権の更なる推進による業務量等に変化が生じた場合には必要に応じて見直しを行う」と明記されており、今まさに見直しが必要と考えますが、ご答弁をお願いします。

市長 本計画の策定目的は、少子・高齢化の進展、合併に伴う地方交付税の特例措置の段階的な縮小を想定し、さらなる効率的な行政運営、財政の健全化を図るためです。財政は依然厳しい状況ですが、その中でも、定住促進、子育て支援等の施策の推進、安定した行政サービスの提供を維持する必要があります。類似団体との職員数の比較も上回っている状況から本計画の目標値の達成に取り組む必要があります。しかしながら、職員の年齢構成等も考慮し、今後の業務量の変化、財政状況等も総合的に判断して、その時々適正な職員数を検討してまいります。